

＜出席者＞ ※敬称略

- 教育長：橋本範憲
- 教育委員：森山浩一
- 地域代表：小川鉄平、工藤建樹、佐藤貴、大村文仁、鳥飼喜彦
- 教育課：平川浩二、中野敬、佐藤雅宏、戸高克哉
- PTA：高館英嗣（本会会長）、戸田茜
- 学 校：森康彦、中井上健、矢野康雄

＜グループ協議の内容＞

【委員より出された主なご意見】

- すぐに諦めない子ども、困難に立ち向かう子ども、転んでもすぐに立ち上がる（七転び八起き）子ども、自分の思いをしっかりと発信できる子どもに育つとよい。
- 学力に限らず、社会に出てしっかりと生きていけるたくましさが必要だとも思う。やがて親元をはなれても、生きていけると思える自信を育ててあげたい。そういうたくましさを育てることが大事だと思う。
- あいさつは、学校ではするが、外では1人ではできていない子もいるのではないか。親が家庭でしっかりとすると子どももできると思うので、家庭で親が子どもに範を示すとよいと思う。
- PTA活動であいさつに取り組むとよい。
- 「睡眠は足りているのか」「朝ごはんは食べててきたのか」などの温かく見守る心情も大切だと思う。強制すると、先生の前でだけあいさつをするような児童になるような気がする。
- 先生への親しさとなれなれしさをしっかりと区別する必要があるのではないか。目上の人に対する言葉遣い、態度は小さい頃から学んでおかなければ社会に出て困る。学校は、不自由さを学ぶことができる大切な場だと思う。
- 読書貯金は、競争にならないようにすることも大切な視点。また、自分の大好きな本に出会うなどの体験も必要だと思う。
- 家の中に本があり、親子で読み聞かせをする、あるいは子どもの傍らで親が読書をしている、そういう空間や時間を家の中に作り出すことが大切だと思う。
- 昔に比べ、背は高いが、線が細い子が増えている気がする。体幹を鍛えるとよい。
- ゲームをする子どもが増えてきており、運動不足の子どもも増えてきている気がする。
- 朝、頑張って歩いて登校している子どもを励ましてあげたい。

【委員より出された意見に対する学校側の考え方】

- たくましい児童を育成するために、様々な役割を与え、成功体験を積ませることによって自信をもたせていく。少しの負荷を与え、乗り越えさせることによってたくましさを育てていく。
- あいさつは、学校での指導を強化するとともに、PTAと連携して家庭や地域でも積極的に大きな声であいさつができるよう指導していく。
- 言葉遣いについては、「親しき中にも礼儀あり」をもとに、学校でもけじめのある言葉遣いを指導するとともに、これもPTAと連携して家庭や地域でも正しい言葉遣いができるように取り組んでいく。
- 体力については、体育の授業及び体育タイムの充実、昼休みの外遊びの奨励等に取り組んでいく。また、歩いて登校してきている児童への称賛を心掛けていく。

【今後、地域と連携して取り組んでいくこと】

- 見守り活動については、引き続き地域の人材の発掘に取り組み、体制の強化を図っていく。
- 交通安全、蜂などの危険生物等、危険箇所については、地域住民との情報交換の強化を図り、早急に対応できるよう努めていく。
- 教育活動の充実を図るために、芋や稻等の生産活動、祖父母参観日、高齢者との交流活動等、内容を工夫するとともに、さらに家庭や地域との連携を深めていく。